

DISCLOSURE

JAみのりディスクロージャー誌2025年度上半期

目 次

ごあいさつ	・・・・・・・・	1
J Aのプロフィール	・・・・・・・・	1
I. 経営理念	・・・・・・・・	2
II. 経営方針	・・・・・・・・	3
III. 協同ハイライト	・・・・・・・・	4
IV. 農業振興活動	・・・・・・・・	6
V. 地域貢献活動	・・・・・・・・	7
VI. 事業の概況(令和7年度上半期)	・・・・・・・・	9
事業実績の推移	・・・・・・・・	10
有価証券の時価情報	・・・・・・・・	10
金銭の信託の時価情報	・・・・・・・・	10
預かり資産の状況	・・・・・・・・	10
自己資本比率(単体)	・・・・・・・・	10
VII. 農協法に基づく開示債権の状況及び金融 再生法開示債権区分に基づく債権の保全状況	・・・・・・・・	11

ごあいさつ

日頃、皆さまにはJAみのりに対しまして、格別のご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

当JAに対するご理解を一層深めていただくためには、情報開示を通じて経営の透明性を高めることが非常に重要です。この度、主な事業内容や組織概要、経営の内容などについてわかりやすくまとめた「ディスクロージャー誌2025年度上半期」を作成いたしました。

皆さまに当JAの事業内容をご理解のうえ、さらにご利用いただくため是非ともご一読くださいますようお願い申し上げます。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

みのり農業協同組合
代表理事組合長 竹内 千博

JAのプロフィール

◇名 称	みのり農業協同組合
◇代表理事組合長	竹内 千博
◇設 立	平成12年4月
◇本店所在地	兵庫県加東市社1777番地の1
◇出 資 金	40 億円
◇総 資 産	4,832 億円
◇組合員数	
正組合員	14,879 人
准組合員	22,119 人
合 計	36,998 人
◇役 員 数	
常 勤	5 人
非 常 勤	23 人
合 計	28 人
◇職 員 数	
正 職 員	316 人
パ ー ト	159 人
合 計	475 人
◇支店・営農経済センター数	
支 店	10 カ所
営農経済センター	6 カ所

※上記の数値は令和7年9月30日現在です。

I. 経営理念

**わたしたちは
地域・人・くらしの
未来づくり（ゆたかなみのり）を
めざします**

わたしたち組合員・役職員は地域の人々のよりどころとして、農業振興と組合員のゆたかな生活に貢献し、組合員等利用者、地域住民の期待・ニーズに対応したさまざまな事業やサービスを総合的かつ多彩に展開して、組合員や地域社会の“ゆたかな未来づくり” “ゆたかなみのり”をめざします。

地域

J Aは、地域社会の中で役立つことにより生かされている存在（組織）であり、いま組合員、地域社会は何に困っているのか、何を求めているのかを見つけだして、即実行していくことです。地域の中で異なる立場の人々が互いにその役割を認め合い、共に生きていく社会＝共生社会をめざすことで、地域の様々な人々

ゆたかな みのり

人

一人ひとりが主人公として、顔の見える存在として認め合う関係づくりが何よりも大切になります。わたしたち一人ひとりの期待や要望にフィットした、的確な対応がJ Aみのり事業の基本原則になっています。

くらし

一人ひとりの暮らしの中での問題を、J Aから確かな情報を適時に提供し、J Aの事業サービスを通じて解決に導くことです。「最善のアドバイス」「最高のもてなしと最良の商品・サービス」を提供することを絶えずめざしています。

Ⅱ. 経営方針

【事業の基本方針】

「協同活動と総合事業で食と農を支え、豊かな暮らしと活力ある地域社会を実現する」をテーマに、これまで取り組んできた組合員との対話を重視し、「協同活動と総合事業の好循環」を通じて、接点（つながり）づくり・組合員との関係強化・仲間づくりを進めていきます。

1. 新時代に向けた持続可能な農業の実現

改正「食料・農業・農村基本法」の主旨に基づき、農業協同組合として生産者と消費者の負託に応えうる地域農業の振興を図ります。組合員の高齢化が進むなか、次世代対策運動を継続するとともに、事業継承支援、新規就農者育成への取り組みを強化し、「よりよい営農活動」・「環境調和型農業」の実現を図ります。安全・安心、環境に配慮した農業の推進を通じて、持続可能な農業の実現と農業団体としての社会的責任をしっかりと果たしていきます。

2. 協同活動と総合事業の好循環

年金・相続・資産運用相談や営農指導等による対面接点やSNSや関連アプリを活用した非対面接点を通じて、組合員との日常的なつながりを強化し、ライフステージに最適なサービスの提案・提供に努めます。協同活動の実践によりJAの強みを活かすとともに、地域のインフラ機能として「組合員の豊かな暮らしの実現」に取り組めます。

3. 担い手訪問や日常的な対話を通じた組織基盤強化

組合員との関係強化に向け、担い手訪問や日常的な対話運動を継続・強化することにより組合員のニーズを的確に把握し、その属性や特性に応じて類型化し、対応することで組織基盤の強化を図ります。併せて、女性会や青年部をはじめ各種組合員組織等からの参画意識を高め、組織基盤のさらなる強化を図ります。

4. JAの将来像の実現に向けた経営基盤強化

将来にわたって地域農業への貢献や事業展開等を示す「JAのあるべき姿」を設定し、その実現に向け、持続可能かつ実効性のある経営計画、経営戦略を策定するとともに、協同組合らしい人づくりに取り組めます。実践体制の構築と総合事業を活かした組合員・利用者ニーズを起点とした事業伸長を図ります。

5. 広報戦略の確立と着実な実践

内外に向けた戦略的な情報発信により、協同組合理念やJA事業への理解促進をすすめる、重点取組戦略との相乗効果を高め、JA総合事業や協同活動への好影響につなげていきます。

Ⅲ. 協同活動ハイライト（令和7年度上半期）

J Aみのりは、「協同活動と総合事業で食と農を支え、豊かな暮らしと活力ある地域社会を実現する」というテーマを第9次3カ年中期経営計画で掲げるとともに、3つの基本方針に取り組んでいます。

協同活動と総合事業で食と農を支え、豊かな暮らしと活力ある地域社会を実現する

このテーマには、私たちJ Aみのりの組合員と役職員が一丸となって、農業や地域が抱える課題の解決に取り組む意思を込めています。そのため、当J Aではこれまで取り組んできた組合員との対話を重視し、「協同活動と総合事業の好循環」を通じて、接点（つながり）づくり・組合員との関係強化・仲間づくりを進めていきます。

基本方針

- ・ 持続可能な農業の実現
- ・ 豊かで暮らしやすい地域共生社会の実現
- ・ 協同組合としての役割発揮

1. 持続可能な農業の実現

(1) 新たな販路開拓による販売力の強化

販売先の開拓を進め、大手スーパー、デパート、ホテルレストランなどとの取引を拡げています。また、地産地消の一環として、各市町給食センターへの食材提供を行いました。

(2) 直売所基幹出荷者の育成

売れる農産物の情報を提供し、農業者の収入増加に向けた営農指導を進めました。

(3) 集落営農等担い手の育成

肥料・農薬、また水稻苗等においても大口利用者に対し一定の基準により助成を行い、規模拡大を奨励しました。水稻、麦類、白・黒大豆、タマネギの肥料・農薬を購入する集落営農組織や認定農業者を対象に助成を行い、担い手の育成に努めました。

(4) 水稻うるち米新品種「コノホシ」への品種転換への取り組み

兵庫県とJAグループが共同で開発した高温耐性品種コノホシへの転換に向け、管内22.9haの試験圃場を設置し、栽培データの採取を行いました。また、試験圃場を活用しての現地栽培講習会を実施し、来年度からのコノホシへの転換に備えました。



(5) 農産物直売所を拠点とした特産品の創出

県立農林水産技術センターが育成した青ネギと白ネギの両方の特性を持つ秋冬ネギの新品種「兵庫N-1号」の試験栽培を实践圃場にて開始。試験栽培にあたり兵庫県農林水産部主催の現地講習会に参加するなど、新たな特産品の創出に取り組んでいます。

(6) 農産物の品質と収量の向上に向けた取り組み

各地に展示圃を設け、それぞれに決めたテーマに基づいて新しい資材や肥料、栽培方法などの効果を調べました。得られた有益な情報は、今後の営農指導に役立て、栽培こよみに反映させて行きます。

2. 豊かでくらしやすい地域共生社会の実現

(1) J Aファンづくり活動の実施

組合員や地域住民との関係を強化し、J Aへの参画意識を高めるため、J Aファンづくり活動を実施しました。

令和7年度計画 全57回実施

⇒令和7年度上半期実績 全23回実施

(2) 組合員の意見を反映するための取り組みを実施

地区別ふれあい委員会の実施

令和7年度計画 20回

⇒令和7年度上半期実績

地区別ふれあい委員会を6回実施し、延べ77人が参加しました。



(3) SNSを活用した積極的な情報発信

組合員や地域住民を対象に、直売所のイベント情報や旬な作物の情報を瞬時に伝えるため、InstagramやLINEを活用した情報発信に努めました。

● Instagram

「ja-minori」

令和7年度上半期投稿数 31件

「furesuko_minori」

令和7年度上半期投稿数 20件

「minoritokusankan」

令和7年度上半期投稿数 25件

● LINE

令和7年度上半期投稿数 31件



3. 協同組合としての役割発揮

(1) 経営基盤確立・強化に向けた取り組み

① デジタル化への取り組みによる事業管理費の抑制

勤怠管理や車両運行管理などのデジタル化を進め、事務の効率化を推進し経費の削減に努めました。

② 収支改善状況の定期的な確認と役員レビューの実施

四半期ごとに役員レビューを実施して事業計画の進捗状況を確認し、改善及び軌道修正を図っています。特に収支改善の取り組みについては、具体策が実行できているかどうか、厳しく検証を行いました。

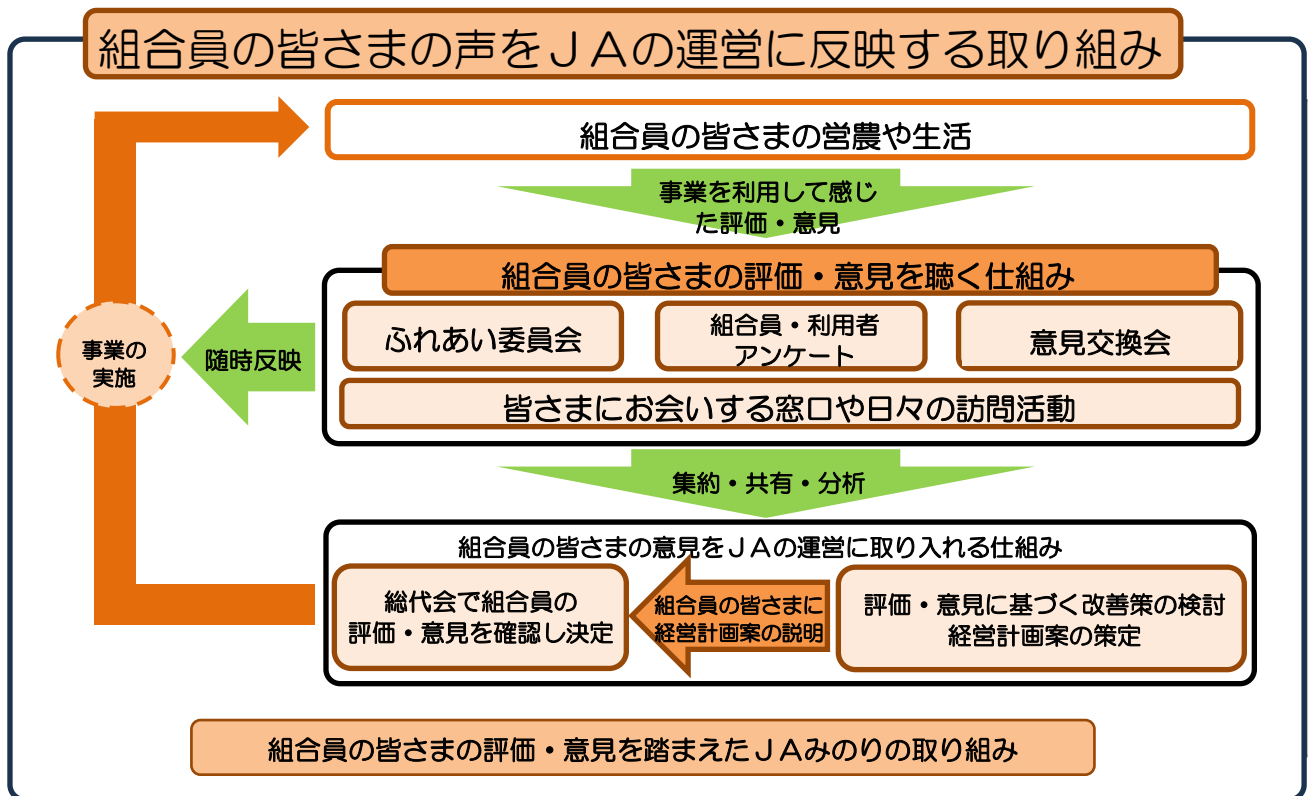
(2) J Aみよりの将来を担う人材を確保する取り組み

協同組合の特性を熟知し、組合員の皆さまに寄り添った相談業務に対応するため、内部研修会の開催や、連合会等が主催する研修会や検定試験への積極的な参加を促しました。

(3) 組合員加入促進の取り組み

J Aみよりの組織基盤を強化して組合運動を高め、サービスを充実させるため、組合員の加入促進に取り組みました。

⇒令和7年度上半期加入人数 606人（正組合員130人、准組合員476人）



IV. 農業振興活動

JAみのりは、次のような農業振興活動に取り組み、協同組合として組合員の「営農と暮らし」を守り、地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて豊かな地域社会の発展を目指しています。

1. 安全・安心な農産物づくりへの取り組み

生産履歴記帳運動に取り組むなど栽培管理の徹底をするとともに、残留農薬検査を実施し安全・安心対策の取り組みに努めました。

2. 農業担い手育成への取り組み

新規就農者や担い手農家への経営支援のための助成措置を行うとともに、栽培振興のための新規作物導入や面積拡大などの支援を実施しました。

3. 地産地消の取り組み

ファーマーズマーケット「ふれすこ社・西脇店」、「道の駅みき直売所」を通じて、地域の消費者に地元の新鮮で安全・安心な農産物の提供に取り組むとともに、会員を中心に栽培講習会を実施し、生産技術と品質の向上に努めました。

4. 第8次営農振興計画の実践

「農業の力で、地域を元気に」をテーマとした営農振興計画を実践しました。

V. 地域貢献活動

J Aみのりは、地域の農業振興と組合員のゆたかな生活に貢献し、組合員や利用者、地域住民の期待・ニーズに対応したさまざまな事業やサービスを総合的に展開しています。

◇社会貢献活動

環境問題への取り組み状況

- ・クールビズや、週に1回のノー残業デーを実施して省エネルギーを実践しました。
- ・農業用廃プラスチックや不要農薬を回収し、資源の有効利用と環境にやさしい農業に取り組んでいます。
- ・土づくりセンターの指定管理者として、地域が取り組む循環型農業の一端を担っています。

◇地域貢献活動

1. 地域からの資金調達の状況

貯金残高（令和7年9月末現在）

（単位：百万円）

種 類	残 高
当 座 性	177,952
定 期 性	264,773
合 計	442,726

2. 地域への資金供給の状況

貸出金残高（令和7年9月末現在）

（単位：百万円）

種 類	残 高
農 業 近 代 化 資 金	35
そ の 他 制 度 資 金	2
農 業 関 連 融 資	560
事 業 関 連 融 資	3,926
住 宅 関 連 融 資	64,159
生 活 関 連 融 資	3,300
そ の 他	402
合 計	72,387

3. 文化的・社会的貢献に関する事項

- (1) 組合員や地域住民を対象に高齢者福祉活動および介護予防活動に取り組んでいます。
- (2) 子どもたちの健全な育成を目的に、毎年J Aみのり主催の少年軟式野球・サッカー大会を開催しています。
- (3) 農業や生活に関する情報提供に取り組んでいます。

■ 広報誌「ねっとわーくMINORI」

J Aみのりは、組合員および地域住民とのコミュニケーションを図るため、J A内外と地域の情報を受発信しています。平成12年5月1日に創刊し、J Aみのり管内全戸配布(約45,600部)しています。

■ ホームページ URL⇒<https://www.ja-minori.jp>

- (4) 役職員は、地域に貢献するため積極的に地域の活動に参加しています。

道路清掃活動や消防団活動をはじめとした社会活動に積極的に参加し、地域に根ざした活動を実践しています。



◇地域密着型金融への取り組み

(中小企業等、経営の改善及び地域活性化のための取り組み状況を含む)

1. 農業者等の経営支援に関する取り組み方針

J Aみのりの経営理念「地域・人・くらしの未来づくり(ゆたかなみのり)をめざします」のもと、農業者をはじめ地域の皆さまに利用される総合事業体として営農・経済事業や金融機能のみならず、環境・文化・福祉といった面も視野に入れた事業・活動を行っています。

なかでも、農業者等の経営支援を重点取り組み事項のひとつとして位置づけ、農業技術・生産性向上に向けた各種研修会等を開催するほか、低利の農業関連融資を活用していただくための普及・推進活動にも取り組んでいます。

2. 農業者等の経営支援に関する態勢整備

各営農経済センターに営農指導員を配置するとともに、兵庫県農業改良普及センターとも連携しながら、農業者の農業技術・生産性向上に向けた相談・指導に応じています。

また、支店の融資担当者も農業や農業関連融資に関する知識を深め、農業者からの幅広い相談に応じることができるよう取り組んでいます。

3. 地域農業活性化のための融資を始めとする支援

農業者の多様なニーズに応えていくため、農業融資担当部門と営農・経済部門とが連携し農業融資に関する訪問・資金提案活動を実施しています。また、各種プロパー農業資金に対応し、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて農業者の農業経営と個人事業主のサポートをしています。

4. 経営の将来性を見極める融資手法を始め担い手に適した資金供給手法の取り組み

農業融資については、営農・経済部門と連携し、取引実績や青色申告書等を活用した経営分析を通じて、農業者に適した資金提案を行っています。

また、農業者に対するアグリマイティー資金、スーパーS資金、農業近代化資金等の融資について、借入者の利子負担を軽減するため、利子補給方式による助成を行っています。

5. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域農業への貢献

支店エリアごとに認定農業者や農会役員、女性会役員や利用者代表などを構成員としたふれあい委員会を開催し、地域の活性化をテーマに議論を重ねました。また、支店・営農経済センターが運営する「地域密着型事業所づくり」や、農産物直売所「ふれすこ」の運営等を通じて、組合員、地域住民、消費者等のニーズを把握し、より身近な事業運営を行っています。

また、J A青年部や女性会などと協力しながら、次代を担う地域の小学生等に対して農業への理解を促進するため、食農教育活動に取り組んでいます。

VI. 事業の概況(令和7年度上半期)

第9次3カ年中期経営計画の初年度として、「協同活動と総合事業で食と農を支え、豊かな暮らしと活力ある地域社会を実現する」をテーマに、これまで取り組んできた組合員との対話を重視し、「協同活動と総合事業の好循環」を通じて、接点（つながり）づくり・組合員との関係強化・仲間づくりを進めています。今後とも多様な組合員の声をJA運営に反映し、地域農業の振興に努めるとともに、将来にわたって持続可能な経営基盤を確立・強化し、地域に根ざしたJAを目指します。

当JAは堅実で健全な経営を基本理念として、次のことに取り組みました。その結果、令和7年9月末日現在の当期剰余金は806百万円となりました。

1. 信用事業

組合員や利用者に信用・信頼される地域金融機関としての機能の充実に努めるとともに、新規利用に取り組み、取引の深耕と拡大を図りました。

この結果、9月末日現在の貯金残高は、442,726百万円、貸出金残高は72,387百万円の実績となりました。

2. 共済事業

組合員とその家族、さらには地域住民を含めた幅広い普及活動の展開により、長期・年金・自動車・自賠責共済など必要な人に必要な保障の提供をはかる推進活動を展開しました。

この結果、9月末日現在で長期共済保有高は、491,504百万円の実績となりました。

3. 購買事業

営農指導を機軸とした指導購買の展開と、組合員ニーズに合った購買品の廉価供給に努めました。価格の低減を図るため、予約購買の増強に取り組みました。

この結果、9月末日現在の購買品供給・取扱高は1,155百万円の実績となりました。

4. 販売事業

水稲など栽培履歴記帳の実施とポジティブリスト制度に伴う農薬飛散防止マニュアルに基づき、安全・安心な農産物の販売に努めました。また、「山田錦だより」を発行し情報の提供に努めました。

この結果、9月末日現在の販売品販売・取扱高は1,322百万円の実績となりました。

5. 指導事業

JAみのりの地域の特性を生かした地域振興作物の支援策を実施しました。良質米の生産指導に努めるとともに、地域農業の将来を担う、担い手育成に向けて生産振興に取り組みました。

JA女性会活動の支援や高齢者福祉活動により、組合員・利用者の豊かな暮らしと、快適な生活を目指す取り組みを行いました。

■事業実績の推移

(単位：百万円)

		令和7年9月末	令和7年3月末	令和6年9月末
信用事業	貯金	442,726	449,074	456,507
	貸出金	72,387	72,318	71,148
	預金	361,405	368,625	380,176
	有価証券	8,741	5,744	4,514
共済事業	長期共済保有高	491,504	502,011	513,897
	短期共済新契約高(掛金)	529	1,128	526
経済事業	購買品供給・取扱高	1,155	2,468	935
	販売品販売・取扱高	1,322	5,105	966

■有価証券の時価情報

(単位：百万円)

保有区分	令和7年9月末			令和7年3月末		
	取得価額	時価	評価損益	取得価額	時価	評価損益
売買目的	-	-	-	-	-	-
満期保有目的	-	-	-	-	-	-
その他	9,308	8,741	△ 566	6,215	5,744	△ 471
合計	9,308	8,741	△ 566	6,215	5,744	△ 471

(注) ① 時価は市場価格等によっています。

② 取得価額は取得原価又は償却原価によっています。

③ その他有価証券については時価を貸借対照表価額としています。

■金銭の信託の時価情報

該当する事項なし

■預かり資産の状況

(1) 投資信託残高 (ファンドラップ含む)

(単位：百万円)

	令和7年9月末	令和7年3月末
投資信託残高 (ファンドラップ含む)	2,237	1,654

(注) 投資信託残高 (ファンドラップ含む) は「約定日基準」に基づく算出です。

(2) 残高有り投資信託口座数

(単位：口座)

	令和7年9月末	令和7年3月末
残高有り投資信託 口座数	1,555	1,408

■自己資本比率(単体)

令和7年9月末	令和7年3月末
19.63%	18.91%

Ⅶ. 農協法に基づく開示債権の状況及び金融再生法開示債権区分に基づく債権の保全状況

(単位：百万円)

債権区分		債権額	保全額		
			担保・保証	引当	合計
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	令和7年9月末	297	167	130	297
	令和7年3月末	357	224	133	357
危険債権	令和7年9月末	138	131	0	131
	令和7年3月末	106	99	0	99
要管理債権	令和7年9月末	-	-	-	-
	令和7年3月末	-	-	-	-
三月延滞	令和7年9月末	-	-	-	-
	令和7年3月末	-	-	-	-
貸出緩和	令和7年9月末	-	-	-	-
	令和7年3月末	-	-	-	-
小計	令和7年9月末	436	298	130	428
	令和7年3月末	464	324	133	457
正常債権	令和7年9月末	72,004			
	令和7年3月末	71,898			
合計	令和7年9月末	72,440			
	令和7年3月末	72,363			

(注) ① 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいいます。

② 危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。

③ 要管理債権

④「三月以上延滞債権」に該当する貸出金と⑤「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金の合計額をいいます。

④ 三月以上延滞債権

元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものをいいます。

⑤ 貸出条件緩和債権

債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものをいいます。

⑥ 正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記に掲げる債権以外のものに区分される債権をいいます。



〒673-1431兵庫県加東市社1 7 7 7 - 1 TEL0795-42-5141

<https://www.ja-minori.jp>

